



学校だより

(5月号) 平成30年4月27日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢 (ゆめ) に向かって とともに学びあう学校
 - ・進んで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子

《今月の生活目標》・時間を守ろう

『大切なこと』

校長 河井 尚

新緑のさわやかな季節となりました。子ども達は、新しい環境に慣れ、のびのびと学校生活を送っています。一方で、心身の疲れから体調を崩す子どもが見受けられます。「早寝・早起き・朝ごはん」生活習慣を見直し、体調を整えるように心がけてください。

先日、天正4年(1576)創業の若狭街道沿いの老舗料亭「平八茶屋(へいはちちや)」の20代目の当主・園部平八さん(現在は21代目 園部晋吾さんが当主)についての話をある友人から聞く機会がありました。園部さんは創業以来の伝統料理「麦めしとろろ汁」を受け継ぎながらも、「時代に迎合しない、しかし時代に求められる料理」を目指し、新たな懐石を考案することに成功するなど日本料理業界の発展に力を注いでいる方です。話を聞いて特に印象深かったのは、お弟子さんについてのことでした。

園部さんは、「料理人になりたい」と言ってきた若者には、まず「5年間続けられるか」と必ず聞くそうです。途中でやめてしまうと、次にどこへ行ってもまた初めからのやり直しになるからです。また、板前を目指すということは、「就職する」のではなく「修行する」ことだと教えています。1年目は買い出しや掃除のみ、2年目に盛り付け、3年目に前菜、4年目に「だし巻き」をつくります。5年目で魚をおろし、1つの作り場を任されるそうです。この5年間の修行を経てやっと「板前」と呼ばれるようになります。この5年間に園部さんが一番大切にしていることが、「あいさつ」と「返事」だそうです。しっかりとあいさつができる人間でないと何をやっても身に付かず、一つ一つのことに「返事」がないと次には進めないといひます。どんな仕事でも仕事をしていく上で大切なことは「あいさつ」と「返事」だと園部さんはおっしゃっているのだそうです。

友人の話に触発され「あいさつ」と「返事」について調べていたら、日本の哲学者で教育者、森 信三(もり のぶぞう、1896年(明治29年) - 1992年(平成4年))の「しつけの三か条」を知ることができました。それは、

- 一、祖父母や両親に、朝起きたらあいさつの出来るように
- 二、祖父母や両親から名前を呼ばれたら「ハイ」と返事の出来るように
- 三、脱いだ履物を自分できっちりそろえて上がり、立ったら椅子を机の下におさめられるように

というものでした。小学生の時期に身に付けるべきことは数多くありますが行動の根本としての「あいさつ」と「返事」は特に大切なことです。子どもたちの生活の基盤である家庭や学校で、身近にいる大人が模範を示すことが、子ども達の気持ちのよい「あいさつ」や「返事」につながると思ひます。学校でも継続して指導して参りますが、ご家庭でも繰り返しの指導をお願いいたします。



さいたま市では「心を潤す4つの言葉」を推奨しています。